

# 代表メッセージ

令和5年1月10日

新年明けましておめでとうございます。

2023年、世界ではまだまだ大きな問題が解決されていない中、国内では様々な分野、領域での改革や改善、修正案が見え隠れし始めるようになり、新たな変化に対する期待を抱きながら新年を迎えられた方も多いのではないのでしょうか。

投資事業を生業とする当社におきましても、実益、実績を再構築するための改革年にする覚悟を持って新年を迎えさせて頂いております。昨年6月29日開催の株主総会以来、我々が目下取り組んで参りましたのは、価値ある投資事案の取扱いと運用のために、課題の洗い出しを基礎とした抜本的な組織改革、そして基幹事業の再構築に他なりません。

旧年中には、継続中を含むいくつかの問題をご報告させて頂いておりますが、ステークホルダーの皆様方におかれましては、歯がゆい思いをされた時間が続きました事を深くお詫び申し上げます。残された今期の実績づくりに最善を尽くすのは当然のことながら、然るべきタイミングで中期事業計画を発表させて頂く予定です。年頭のこの場をお借りしまして、今後の事業計画の基幹となります項目をご報告申し上げます。

## 時代潮流を掴む投資、実業体制への改革

### 1. 過去事案の精算

当社の長い歴史の中で、これまで活動して参りました事業、関連会社、目的会社等を今期内に精査し、継続するものと終了させるものを決定します。大きな目的の一つは財務状況の改善にあります。さらに将来的価値や利益を伴わないと判断した事案に対する時間、資本、人員配置の無駄を撤廃し、新たな企業価値、企業文化を生み出すためのプロセスに集中させます。内部はもちろん、外部専門家や企業との意見交換を交え、未来意識を共有しながら前向きな撤退領域も決断して参ります。

### 2. RD室の本格稼働

「RD室※RD=Research & Development」は、専門分野の知見強化を目的とした機関（シンクタンク）でもあり、投資事業の補助的役割を果たすべく、調査、分析、フィードバックの精度を向上させる内部機関の補強を行います。さらに大規模なインフラや政策が与える、ライフサイクルの課題を見つけて出すためのマーケティングと連動させていきます。社会やコミュニティ、個人におい

て新たな価値や実用性を創るまでにはいくつもの課題はありますが、違う立場や目線から見据えた、未来にチャレンジするスタートアップがさらに必要となってくる事でしょう。膨大な情報を司るためにも、このデータサイエンス領域を活用した実業への派生と投資こそが当社の強み(=コーポレートブランディング)になるよう再構築を進めて参ります。すでに他業種とのプロジェクトや産学プロジェクト等を計画中であり、中期事業計画に反映する基礎となります。さらに、当社の投資実績を活用したコンサルティング業務の推進も行なって参ります。業務自体が情報収集の場であるとともに、キャッシュフロー強化、個々の能力向上にもつながると考えています。

### 3. 投資対象検証のための社内事業部制

投資環境の整備に向けて、更なる実証検証を行う部門を事案に応じて設けて参ります。安心、安全な投資事案を作り出すためにも、外部への投資や協業を行う前に実業を予測する実証プロセスを通過させます。この部門は、生活者への実態を伴う効果とリスクを最小限に抑えるための検証による最大効率化を図る場といえます。この取組みが、データサイエンスを生かした研究と実用を結びつけるための、我々の新たな投資機会創出と基幹事業を作る上での土台に成り得ると考えています。また、事業部そのものに独立採算の見込みがあると判断できれば、新たな利益獲得の機会創出にも踏み込んで参ります。

### 4. 人材強化

内外部の実用情報精度を高め事業部の機能を活かすために、専門分野の人材強化は欠かせません。中長期のみならず即効性を必要とする仮説力、実行力、継続力を向上させ、生業でもあります投資分野や複数のキャッシュポイントの獲得を目指し、人材強化を図ります。答えが見えにくい時代だからこそ、調査や議論を積み重ねるための人材が最大の武器になると同時に、我々にとっての最重要な投資になると考えています。時代の変化に耐え得る生業を継続していくためにも、人材発掘と育成を根気よく継続して参ります。

#### 初期基幹事業設計

#### 「エネルギー事業への本格参入と投資事業の基幹事業化」

「GX 事業部 ※GX=Green Transformation」は、上記の項目を踏まえた事業準備室として現在活動しています。今後、再生可能エネルギー需給がもたらす実態予測の知見協議を深めた上で正式に事業部を立ち上げ、本格的なエネルギー供給事業および管理システム開発並びに投資ファンド組成へと本格参入する計画です。各電力会社や大手商社が推し進める現在進行形のエネルギー供給インフラの開発や、2024 年度以降の新市場に向けた取組みはさらに激化していくことでしょう。生活インフラは電氣化を加速させ、それと並行して IoT 社会に向けたデジタル

ソリューションの活用が重なり合えば、個人単位、街単位、地域単位のエネルギー需給の効率化は目に見えて重要になってくる事でしょう。また、多情報間の接続による未来予測能力（データベースと AI）が向上する事で、コミュニケーションを司る仮想現実化領域も実現必至と言えますし、同領域のスタートアップ企業発掘にも力を入れて参ります。我々も、本格的な脱炭素社会実現から始まる新たな産業の一端を担えるように、主要プレイヤー企業との議論や協業を強化していきながら、課題を見つけ出すプロセスを充実させていきます。また近い将来にはインフラ設備の廃棄、リサイクルといった持続可能化事業が表面化してくることも忘れていません。投資企業としての軸足を変えることなく、データサイエンスとマーケティングの組み合わせによる、非金融事業と金融事業の両輪を、まずは GX 事業において確立させます。

不確実で見通しが難しいと言われて久しい時代ですが、金融、経済、人権、環境問題など多くの課題に対して、世界がその足を止めることは決して無いということだけは言えるでしょう。

最後になりましたが、本年も皆様のご健勝とより一層のご活躍をお祈り申し上げます。

燦キャピタルマネージメント株式会社

代表取締役社長 **清末隆宏**